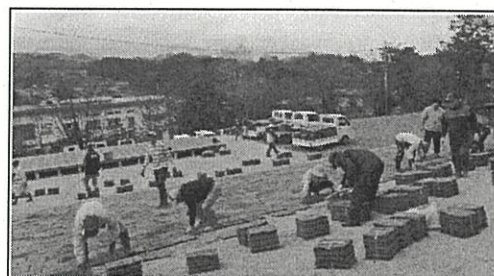


令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みほ多世代交流促進事業
事業主体 (連絡先)	三穂まちづくり委員会
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,845,000 円

事業内容

三穂自治振興センター上段東にある君崎公園側遊休地を整地し、天然芝を植栽することで、あふれる緑により景観が改善され、西側とともに広大かつ子ども達が思いっきり野山を駆け巡る格好の広場となり、住民のさらなる憩いの場、健康づくりの拠点となった。また、公園中央部に巨大ウッドデッキを設置すべく、その制作過程をワークショップ形式で行うことで、住民がウッドデッキの制作方法を学ぶ機会となった。今後はこの公園で、親子連れはもちろん、世代の枠を超えた幅広い交流が展開され、地域全体で子育てを応援できる態勢を整えたい。これによって、子育て世代の流出防止、子育て世代のUIターンを促し、地区の人口増につなげたい。



【住民による公園芝植栽事業】

【目標・ねらい】

- ①公園の整地…荒地・遊休地を削減し、景観改善と住民の活動広場を広げる。
- ②住民による芝の植栽…自分たちの手で作り上げた公園とするために、関与する機会を創設する。
- ③ワークショップ…公園の目玉であるウッドデッキの制作過程を学び、家庭でも制作できるようにする。
- ④多世代交流事業…子供から高齢者までが一堂に会し、交流できる機会を設ける。

事業効果

- ①公園の整地…足の踏み場もない荒地だった当該地が、整地されることによって、景観が改善し、新たな住民の憩いの場となった。
- ②住民による芝の植栽…1,000㎡の敷地に、住民総出で芝の植栽を行った。自分たちの手で作り上げた公園という意識が生まれ、これからの三穂地区の誇りとなる作業となった。
- ③ウッドデッキ制作ワークショップの開催…土台作りと天板張りの2回に分けて行った。木をダイナミックに使用するウッドデッキであり、非常に困難な工事とを感じる作業であるが、参加者には素人でもできるという意識が生まれた。
- ④多世代交流事業の展開…コロナウィルスの影響で多くの事業が行えなかったことが非常に残念であった。

※自己評価【B】

【理由】

美しい公園が整備され、ウッドデッキも完成し、住民の自然に親しむ喜びが醸成された。しかし、予定していた多世代交流事業がコロナウィルスの影響で行えないものがあった。

今後の取り組み

除草、石拾い等公園の環境維持に努める。また、遊具の充実と、三穂地区の懸案である、マレットゴルフ場の整備についても検討する。

ウッドデッキを中心に、多世代が交流できる事業を積極的に展開する。